

エスユー通信



社長挨拶

引き続き、熱中症・コロナ対策をお願いします

皆さん毎日の作業お疲れ様です。

猛暑、酷暑のシーズンはまだ続きますが、加えて昨年来のコロナ緊急事態宣言下の夏となりました。9月中の緊急事態宣言延長も発表され、感染者数も激増の一途をたどっております。

引き続き、熱中症対策、コロナ対策においては、皆様のご協力のもと業務を行って参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。この様な作業環境としては非常に大変な時期であり、実体経済は減退した状況で停滞気味です。その中でも何とか成長、現状以上を目指して計画を進行中ですが、この7月・8月は大変に事故が急増して足かせとなっております。近年の異常気象により高温状態での作業になっていて、平常月よりも事故の発生率が当社グループ内だけでなく、同業他社でも同じような傾向が見られます。理由としては、気温の高さによる判断力、認知力、注意力の低下が大きいこと。温度差による情緒不安定化が特に正常な機能を阻害していることが原因です。

プロドライバーとしての安全品質について

しかし、私たちはプロとしてお客様にサービスを提供し、報酬を得ておりますので、お預かりした商品を大切に扱いお届けすること。また、公道を利用して他の公道を利用する一般の方をはじめとする社会の皆さんと共存をしております。プロとして安全運転最優先、交通事故を防ぐことを率先して行う義務があります。

上記のことから、プロとして日常の気象環境を理解した行動は仕事の一部です。また、異常気象と言っても近年の傾向から、それを統計的に予知した行動を取っていくことを

しなくてはなりません。

さらには、管理者だけでなく、現場の皆さんでこれに対応する策を考え、対応していくことが重要だと思います。

管理者はお客様に対する対応、要請など環境を整えること。現場は安全・品質を上げる又は守る為の対応を行っていくこと。それぞれの役割で全体の良化を目指していくことが大切です。

コロナ対策同様、安全・品質についても、「他人事ではなく、自分の事として考える、実践していく」ことをお願いしたいと思います。

同じ方法で結果が出ていない現状としては、「一人で考え対応することから全体で考え対応することに変える」、「全体で考える機会を作っていなければ、全体で考える機会をつくる」など、新しい視点で物事に取り組む変化を皆さんで行い、全員の安全とお客様に対する品質、他社と競争で勝ち残れる企業として成長できることを考えて参りましょう。

冒頭に申し上げました通り、全従業員の皆さん、ご家族関係者の皆様方におかれましては、昨年来から日常が一変しコロナ対策とそれまであったシーズンでの健康、安全対策の両方を行わなくてはならない中、大変ご協力を頂き有難う御座います。まもなく当グループ全社とも中間期を迎えます。何とか今期の終わりには昨年よりも良くなる目標を達成できることと思っておりますが、皆様の更なるご支援なしには達成できないことであることに代わりありません。何卒、引き続きの一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

代表取締役 清水 英次

大規模自然災害による 水害に備えましょう

近頃、線状降水帯の影響で、各地で被害が出ています。年々、大規模自然災害は増加しており、被害を最小限に抑えるためには事前の災害対策が必要です。

災害は突然起こるため、避難指示が出ていなくても危険度が高まっている事があります。危険度分布をリアルタイムで確認できる気象庁発表の**キキクル**などで周辺の危険度を都度確認しておきましょう。

また、新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも危険な場所にいる方は避難が原則です。ただ「避難」というのは決して「避難所に行くこと」だけでなく、「避難とは、難を逃れること」とよく言われています。避難所に行くことは、あくまでも手段の1つに過ぎず、安全を確保できれば、どこに移動するのでも良いことになります。知人の家に避難、場所によっては、自宅の2階で安全を図ることも方法の1つです。

「自らの命は自らが守る」

夏の災害時に一番重要なことは「暑さ対策」です。特に猛暑時に停電が起きてしまうと、熱中症にかかるリスクが高まります。そこで、冷却アイテムの備えが必要となります。

◆暑さ対策◆

- ・大量の水や経口補水液
- ・塩タブレット
- ・ゼリーなど水分量の多い非常食
- ・冷却タオル
- ・乾電池式の扇風機
- ・冷えヒタシート

新型コロナウイルス感染症対策として、防災グッズの中に衛生用品を準備しておくことをおすすめします。

◆衛生対策◆

- ・汗拭きシート
- ・おしり拭き
- ・ドライシャンプー
- ・携帯用シャワーやビデ
- ・着替え
- ・使い捨て手袋
- ・除菌シート、マスク、消毒液



最後に水害から身を守る3つのポイントをご紹介します。

- ① 日頃から水害ハザードマップを活用して必要な対策や避難場所・避難経路などを確認しておく。
 - ② 震災時と同じく非常持ち出し品を準備、大事なものは2階など高いところに保管する。
 - ③ 状況が安全なうちに避難することが肝心！
- 例年の傾向として関東地方は9月10月に大規模自然災害が起きやすくなっております。未来の災害のために、今できることをしておけば、被害は最小限に食い止めることが出来ます。

雨天時こそバック事故対策を！

構内でのトラック接車時にも雨の日は水滴によりサイドミラーが見づらくなり、窓を開けての確認も省きがちになります。また、いつもよりも「近くに接車したい」との心理から、バック事故のリスクが高まります。雨の日にもバック時には躊躇することなくトラックの両窓を全開にできるよう、日頃から運転室内の整理整頓を進めることも雨の日の事故防止対策となります。

